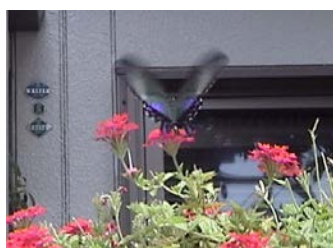


カラスアゲハは、私とそのチョウであったなら、もっとふさわしい名前をつけてよ！と文句をいいたくなるほど、自然界には本当にきれいな色があるものだと魅入ってしまう、それはみごとに色彩豊かなとても美しいチョウです。兵庫でも山深く入れば、さらに濃い色調の美しいミヤマカラスアゲハという近縁種がいて、信州や北海道に産する春型は金緑色に輝くまばゆいほどの美しさです。日本には約 250 種のチョウがいますが、一度、それらの中から美しい種を 10 頭ほど並べて、どのチョウが一番きれいで好きか、という賞品をかけた投票をしてもらったら面白いのではと思っています。

幼虫が好んで食べるのはコクサギという柑橘系ミカン科の山地性低木で、カラスザンショウ、キハダなどという樹木の葉っぱも食べます。西畑で、1984 年 8 月に信州から持ち帰ったミヤマカラスアゲハ♀に産卵させて飼育するために、神崎郡の七草山からコクサギを庭に移植して育てていたところ、いつのまにかカラスアゲハが産卵していて自然状態で家の裏庭でカラスアゲハが 2 頭発生したことがあります。ここからの発生が途絶えて久しい 1998 年、妻が多種類の花を植栽して楽しんでいたせいで訪れるチョウが多いなか、久しぶりにカラス



アゲハもきてくれたのがうれしく一連の Video 記録をとっています。高砂公園にはカラスザンショウの大木があり、近所でも自然発生を繰り返して

いる可能性があります、実態の把握はできていません。

カラスアゲハもミヤマカラスアゲハ同様、寒冷地の方の色彩がより鮮やかな傾向がみられ、例えば北海道旭川の安足間産標本に示すように、兵庫音水溪谷産にくらべて後翅のブルー鱗粉が幅広く、かつ濃くてきれいです。カラスアゲハは♂の前翅翅表に暗色の長毛からなるピロード状の部分がありますが、これは性斑といって♂にのみ見られる特徴です。♀は相対的に鱗粉が緑色を帯び、♂は青色が勝っていることでも雌雄の差があるのですが、上記性斑の有無がもっとも分かりやすい区別点となります。



カラスアゲハは南方にゆくにしたがい大型化する傾向があるようで、四国高知の梶が森という標高 1000m 付近でみる個体は音水溪谷産の 1.5 倍はあり、鱗粉色も寒冷地産の特徴を示して美麗となります。チョウの世界にのめりこむと、こうしたいろんな地域の個体差を調べたいという欲求が強くなって、可能なかぎり全国を渡り歩きたくなるのですが、私は、多様な自然の中へと飛び込んでゆく、とても健康にいい趣味だと思っています。